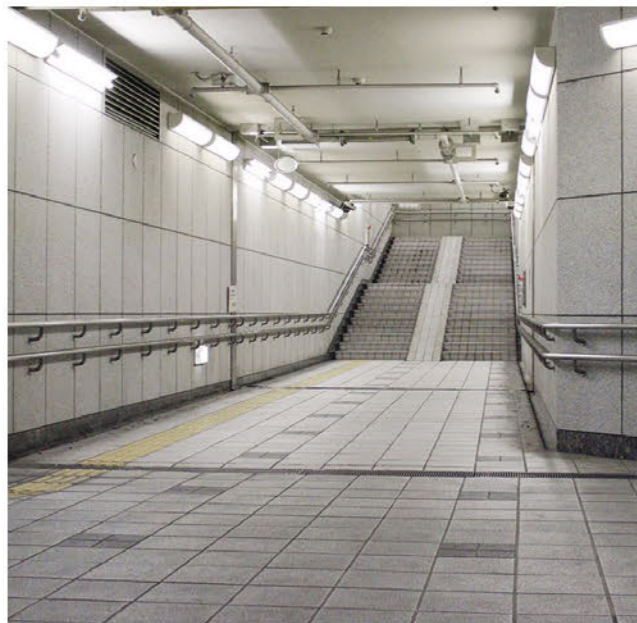


3 こんなところは危険!

場所や状況により、内水氾濫の注意点や取るべき行動は違います。ここでは特に注意が必要な場所・状況の注意点をご紹介します。

地下横断道・地下街・地下室



地上が冠水すると地下に水が一気に流れ込み、水圧でドアが開かなくなったり、停電で真っ暗になるおそれがあります。地下では地上の様子は分からないので、大雨の際はできるだけ地下を避け、もし地下にいるときは早めに避難してください。

アンダーパス



鉄道や道路の下を通過するアンダーパスは、周辺の地面よりも低くなっているため雨水が流れ込みやすく危険です。冠水していたら無理に通過せず、迂回しましょう。

車の運転中



浸水や冠水の危険を感じたら高台などに移動しましょう。冠水した車のエンジンを無理にかけると、エンジンが故障するおそれがあります。

コラム column 松山市の浸水対策

平成13年6月19日から20日にかけて発生した大雨では、市内で1時間当たりの雨量が47mmを記録し、市内各所で116棟が床上浸水の被害にあいました。松山市では特に被害が大きく緊急度の高い10地区を重点地区と位置付け、雨水管や雨水排水ポンプ場などの整備に取り組み、平成28年5月に対象10地区全ての整備が完了しました。しかし整備基準を超える大雨に対応するには限界があります。「内水ハザードマップ」で自宅周辺の状況を把握し、日ごろから内水氾濫に備えるように心がけてください。



和泉雨水排水ポンプ場



朝生田雨水管(管径2.4m)

〈重点地区〉 天山、朝生田、和泉、西石井、中須賀・古三津、大可賀、和気、高岡、ロープウェー街、新浜

ひ 日ごろの心得 ころ え

自分自身の意識が大切



1 事前準備が防災・減災につながる!

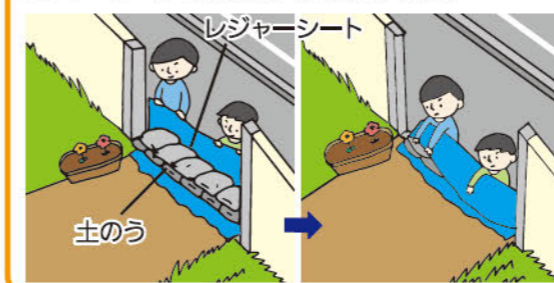
災害が短時間で発生したり、多発したりすると、行政の対応が追いつかないことが予想されます。そのときは自らの判断と行動で身を守ることが求められます。日ごろから、いざというときのためにどのようなことができるか、考えておきましょう。

浸水を防ぐための行動

内水氾濫に備えて、家の出入り口などに土のうや止水板を用意しておきましょう。土のうや止水板の作成に必要なものはホームセンターなどで購入できます。緊急時にどうしても土のうや止水板の準備が間に合わない場合は、簡易水防の方法があります。ただし、あくまでも小規模で水深の浅い初期の段階に行うものです。

【土のうの設置例】

土のうの結び口は建物側に向け、レジャーシートで道路側から建物側へ包む



【止水板の設置例】



【簡易水防の例(水のう)】



家のまわりの点検・清掃

側溝や雨水ますに落ち葉やゴミなどが詰まると、水の流れが悪くなるので普段から掃除しましょう。また側溝や雨水ますの上に物を置かないようにしてください。

自助



ハザードマップの確認



自宅や会社、学校、通勤・通学路などが浸水想定区域に入っていないかどうか確認しておきましょう。

共助



地域や身近にいる人同士が助け合う行動
地域での話し合いを行い、助けが必要な人への支援方法などを決めておきましょう。

防災・減災

公助



国や地方公共団体による行動
対策として、雨水管や雨水排水ポンプ場などの施設整備や「まつやま内水ハザードマップ」の公表による情報提供を行っています。